

第2回 小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

日 時：平成30年12月21日（金）13：30～16：00

場 所：独立行政法人水資源機構 朝倉総合事業所 1F 大会議室

出席者：（委員）古賀部会長、荒井委員、飯田委員、小野委員、広渡委員、松井委員

（事務局）11名

（オブザーバ）朝倉市、東峰村、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所、
工事関係者

（報道機関）1社

資 料：

議事次第

資料-1 出席者名簿

資料-2 小石原川ダムモニタリング部会の設置について

資料-3 小石原川ダムモニタリング部会 規約

資料-4 小石原川ダムモニタリング部会の公開方法について

資料-5 第1回小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

資料-6 平成30年度小石原川ダムモニタリング調査結果・平成31年度小石原川ダムモニタリング調査計画

審議内容等：

1. 工事の進捗状況

工事進捗状況について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

2. 第1回モニタリング部会の審議結果

第1回部会の意見等について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

3. 小石原川ダムモニタリング調査計画の概要

小石原川ダムモニタリング計画の概要について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

4. 平成30年度モニタリング調査結果

平成30年度に実施しているモニタリング調査結果について事務局より説明した。部会から出された意見は次のとおり。

- ・コウモリトンネルを整備して3年弱の期間にコキクガシラコウモリが3個体確認されたこと、また、保護移動の対象ではない1個体が含まれていたことは、かなりよい結果と評価できる。今年度の調査では、まだ個体が確認されていないが、今後の冬季調査で個体の確認に留意するとよい。
- ・コキクガシラコウモリの調査位置図に、「コウモリトンネル」と「ダム下流洞窟」だけでなく、「T-1横坑」の位置も示した方がよい。

- ・ヤマネについて、複数の個体が確認され小石原川ダム周辺では生息環境が維持されていると考えられるが、今後も生息状況に注視してモニタリング調査を継続するとよい。
- ・シカが昆虫類の食草や吸蜜植物を食べてしまうことにより、昆虫類相が変化することが知られている。今後、ダム湖周辺におけるシカの生息状況を把握し、特に伐採跡地におけるシカの食害に留意して欲しい。
- ・植物の重要な種の移植について、獣害防止柵を設置した状態では、獣害による個体の健全度の評価が判断できない。このため、試験的に獣害防止柵を外した対照区を設けて、モニタリング調査を実施することを検討して欲しい。
- ・一部の観測井戸でみられる 10m 程度の水位変動は、結晶片岩地帯のクラックによる可能性が考えられる。
- ・地下水への影響回避工法の採用に関して、地下水位が変化することも考えられることから、沢水の量を把握したほうがよいと考える。
- ・過去に初岳山頂周辺にブナの生育を確認したことから、常落混交広葉樹林の復元・整備において、植栽する樹種にブナを追加またはブナ種子の播種を行ってもよいのではないかとの提案があった。
- ・付着藻類について、導水施設下流では確認された細胞数が少ないため、珪藻類の占める割合が大きいという記述を見直すとよい。
- ・環境変化を把握するため、魚類調査において江川ダム貯水池を調査地点に追加することを検討して欲しい。

5. クマタカ保全検討会の報告について

- ・クマタカ保全検討会の開催状況、審議内容を報告した。
- ・モニタリング対象としているクマタカ 5 つがいについて、これまでの繁殖状況の調査結果から工事に伴う影響は考えられないとの報告があった。

6. 平成 31 年度モニタリング調査計画

平成 31 年度モニタリング調査計画について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

以 上